

解答プリント「中学社会・歴史分野」

■確認プリント

単元:10 日清・日露戦争と近代産業

【評価の観点】 ㉞：思考・判断・表現 ㉟：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>㉞ (1) 自由民権運動</p> <p>㉟ (2) ① 板垣退助 ② 大隈重信</p> <p>㊦ (3) ドイツ</p> <p>㊦ (4) 貴族院</p> <p>㉟ (5) D</p>	<p>㉞ (1) Aは1874年、Bは1885年、Cは1889年、Dは1890年である。</p> <p>(1) 板垣退助は征韓論争に敗れ、1873年に政府から去っていた。民撰議院設立の建白書が出されたのはその翌年である。</p> <p>(2) ① 板垣退助が総理となった自由党の考えは、フランスの自由民権思想の影響を受けている。</p> <p>② 大隈重信が総理となった立憲改進黨は、イギリス流の議会政治を主張した。</p> <p>(3) プロシア憲法、プロイセン憲法ともいう。1850年に成立したプロシアの憲法である。</p> <p>(4) 貴族院は衆議院とほぼ対等の権限を持っていた。皇族・華族、学識経験者、勲功のある者、多額納税者などで構成されていた。</p> <p>(5) 第一回衆議院議員選挙の様子を表している。1889年の大日本帝国憲法の発布により、1890年に日本で最初の国会議員選挙が行われた。</p>
<p>㉟ (1) A ドイツ B イギリス C フランス D ロシア</p> <p>㉟ (2) ア・オ</p> <p>㉟ (3) オ</p>	<p>㉟ (1) 1899年ころまでに、ロシアは東北地方、ドイツは山東半島、イギリスは長江流域、フランスは華南地方をほぼ勢力範囲としていた。また、日本は台湾とその対岸に位置する福建地方を勢力下に置いた。</p> <p>(2)(3) 日清戦争の講和条約である下関条約により、日本は清から台湾と遼東半島を譲り受けたが、南下政策を進めるロシアはドイツ・フランスをさそい、日本に対して遼東半島の清への返還を要求した。軍事的に対抗できない日本は、返還料を受け取り、遼東半島の返還に応じた。</p>
<p>㉟ (1) 日英同盟</p> <p>㉟ (2) 与謝野晶子</p> <p>㉟ (3) ポーツマス条約</p> <p>㉟ (4) 韓国併合</p> <p>㉟ (5) 孫文</p>	<p>㉟ (1) 日英同盟の締結をアメリカも支持している。</p> <p>(2) 日露戦争に出征する弟を案じてよんだものである。雑誌『明星』に掲載された。</p> <p>(3) アメリカ大統領の斡旋により、アメリカ合衆国大西洋岸のポーツマスで結ばれた。</p> <p>(4) 朝鮮は1897年に国号を大韓帝国(韓国)と改称した。</p> <p>(5) 1912年、南京を首都とする中華民国が成立し、孫文が臨時大総統となった。</p>